



平成29年度 だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業  
**被災地交流 避難所開設訓練**

— 2017 —





# 《 だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業 》

大仙市教育委員会 教育指導課

## 本事業でねらう3本の柱

- 「自分の命を自分で守る子ども」の育成
- 小・中学生によるだいせん絆プロジェクト
- 自主防災組織づくりから広げる地域力の向上

## 防災教育に関わる市内小・中学校の主な取組 【これまでの取組】

### ～ I・支援と交流 ～

- ①被災地支援  
＜全小・中学校＞
  - ・募金・米・文房具などの送付
- ②被災地訪問による交流  
＜市内5中学校・6小学校(H27)＞
  - ・部活動交流、グランドゴルフ、だまこ汁の提供、清掃奉仕活動
  - ・プランター花のプレゼント、絵画修復、花火大会
- ③中学生サミットによる支援
  - ・ヘルメットや図書の寄贈、被災地訪問による交流と学習会
  - ・交流活動の報告会

### ～ II・国や市の事業 ～

- ①H23 福島っ子との交流事業  
＜市内5小学校、3地域＞
  - ・冬祭りへの参加や音楽交流、郷土料理体験
- ②H23～H25復興教育支援事業  
(文部科学省指定)＜大曲中＞
  - ・創作花火の打ち上げや鉢花贈呈、若竹町内会との合同避難訓練
- ③避難所開設訓練  
＜H25 平和中、H26 大曲西中  
H27 西仙北中、H28 仙北中＞
- ④市総合防災訓練への参加  
＜H23中仙地域、H24南外地域、H25協和地域、  
H27太田地域、H28大曲地域＞

### ～ III・計画等の整備 ～

- ①「学校安全計画」「危機管理マニュアル」「防災教育年間指導計画」等の整備
  - ・整備の実態把握と改善
- ②「大仙市版・避難所対応マニュアル」の提供
  - ・総合防災課との連携による計画立案
- ③各学校における緊急連絡体制の整備
  - ・携帯電話等による電子メール配信システム整備

## 【課題】

- ★地域の実態に即し、市職員と協働で行う避難所開設の在り方
- ★自主防災組織と連携した防災活動
- ★市内小・中学校の防災ラジオの整備及び受信環境の整備

# 平成29年度の計画

## ～ I・交流の継続と充実 ～

被災地との交流

- ・大曲中、大曲小、花館小、東大曲小、四ツ屋小  
⇨大船渡市（赤崎地区仮設住宅）
- ・平和中⇨大槌町（吉里吉里地区仮設住宅）
- ・太田中⇨大槌町（大槌学園、仮設住宅）
- ・南外中⇨南三陸町  
（仮設住宅、さんさん商店街）
- ・太田3小⇨仙台市（若林区荒浜地区住民）

## ～ II・国や市の事業 ～

- ①県冬期防災訓練＜協和スキー場＞  
平成30年1月23日（火）

### ②だいせん防災教育 「生き抜く力育成」事業

## ～ III・計画等の整備 ～

「危機管理マニュアル」等の見直しと改善

### だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業

実施予定日	平成29年10月26日（木）
実施場所	大仙市立太田中学校 体育館及び校舎
参加者	太田中学校全校生徒及び教職員 地域自主防災組織代表住民 参加を希望する中学生サミットメンバー 市内小・中学校教職員 消防署等の関係機関 等
主催	大仙市教育委員会教育指導課及び総合防災課

#### ～主な活動～

- ①生徒避難
- ②避難所開設
- ③地域住民避難
- ④避難所運営
- ⑤避難者への食事の提供

- ・モデル校の実践として、地震発生時の避難訓練、避難所開設に関わる初期対応の実際を体験させる
- ・地域住民との防災訓練及び体験を通して、自助から共助へと主体的に行動する力を身に付けさせる
- ・モデル校の実践に中学生サミットメンバー及び市内小・中学校教職員が参加することにより、市内各地域の自主防災に対する意識の高揚を図る
- ・被災地交流の経験を活かし、避難者の心に寄り添った避難所運営を行うとともに、地域の一員としての役割を自覚し、主体的に開設・運営に参画する態度を育む

## 事業による成果を生かす

「総合的な学力」を身に付けた児童生徒の育成に“つなげる”  
太田地域の防災モデル実践の成果を市内全域に“広げる”

小・中学生が主体的に社会参画する地域づくりへ

## 被災地交流の概要

### 大曲中学校（7年目） 大曲小学校、花館小学校（4年目）

期日	交流の場所	参加者	交流参加者
5月30日(火)	岩手県大船渡市 赤崎地区 後ノ入仮設住宅 大立仮設住宅	大曲中3年生 13名 大曲中教職員 7名 学区内小学校代表児童、教職員 6名 計26名	後ノ入仮設住宅住民 大立仮設住宅住民 20名

### 平和中学校（6年目）

期日	交流の場所	参加者	交流参加者
9月8日(金)	岩手県上閉伊郡大槌町 吉里吉里地区 大船渡市「津波伝承館」 釜石市	1年生33名 教職員 3名 計36名	津波伝承館職員、語り部 5名 観光ボランティア 1名
9月8日(金)	岩手県上閉伊郡大槌町 吉里吉里地区 大船渡市「津波伝承館」 南リアス線	2年生34名 教職員 2名 計36名	津波伝承館職員、語り部 5名 観光ボランティア 1名
9月7日(木) ～8日(金)	岩手県上閉伊郡大槌町 吉里吉里地区	3年生35名 教職員 2名 他(保護者) 2名 計39名	地元住民 多数 老人クラブ60名 若だんなの会10名 公民館 関係者等 10名
10月8日(日)	大仙市立平和中学校	全校生徒103名 教職員 15名 計153名	吉里吉里若だんなの会
12月2日(土)	大仙市立平和中学校	全校生徒103名 教職員 15名 他(保護者) 多数	芳賀博典氏 (大槌町公民館吉里吉里分館分館長) 藤本俊明氏 (吉里吉里地区復興協議会 会長)

### 南外中学校（5年目）

期日	交流の場所	参加者	交流参加者
10月19日(木) ～20日(金)	宮城県本吉郡南三陸町 さんさん商店街 志津川中学校内にある 仮設住宅	3年生16名 教職員 4名 地域住民	南三陸町 仮設住宅住民 約20名
10月29日(日)	南外コミュニティセンター	2年生20名 教職員 3名 計23名	南三陸町さんさん商店街の方々 4名



## 太田南小学校、太田東小学校、太田北小学校（5年目）

期日	訪問先	参加者	交流参加者
6月26日(月) ※3校合同修学旅行 の1日目	宮城県仙台市若林区 荒浜地区	太田南小22名 太田東小14名 太田北小10名 引率教職員9名 計55名	ボランティアセン ターや地権者の方々 2名

## 太田中学校（7年目）

期日	訪問先	参加者	交流参加者
5月25日(木) ～26日(金)	岩手県上閉伊郡大槌町 第5仮設団地(和野) 吉里吉里仮設団地(吉里 吉里学園グラウンド) 大槌町立大槌学園	1年生47名 教職員5名 計52名	第5仮設団地(和野) 住民、吉里吉里仮設 団地(吉里吉里学園 グラウンド)住民 約70名
8月11日(木)	岩手県上閉伊郡大槌町 第5仮設団地(和野) 吉里吉里仮設団地(吉里 吉里学園グラウンド)	中学生有志62名 学区内小学生有志 15名 保護者、地域住民5名 教職員11名 計93名	第5仮設団地(和野) 住民、吉里吉里仮設 団地(吉里吉里学園 グラウンド)住民 約80名
8月31日(金)	岩手県上閉伊郡大槌町 大槌町立大槌学園	2年生43名 教職員7名 計50名	大槌町立大槌学園 8年生71名 教職員4名 計75名
10月20日(金) ～21日(土)	岩手県上閉伊郡大槌町 大槌町立大槌学園 シーサイドタウン「マ スト」 岩手県立総合防災セン ター	3年生58名 教職員4名 計62名	大槌町立大槌学園 9年生77名 教職員7名 計84名
10月26日(木)	大仙市立太田中学校	全校生徒150名 教職員25名 計175名	末永正志氏 (元釜石市消防防災 課長)
11月24日(金)	大仙市立太田中学校	全校生徒150名 教職員25名 太田地域内3小学校 6年生45名 計220名	大槌町立大槌学園 9年生 生徒会執行部5名 語り部実行委3名 引率職員2名 計10名

# 平成 29 年度 大曲中学校 赤崎地区被災地交流活動の記録

## 1 本校の交流活動について

- (1) 本校の交流活動は、文部科学省委託事業「復興教育支援事業」を受けて、平成 23 年度から始まった大船渡市立赤崎中学校との交流事業を、大仙市による「だいせん防災教育『生き抜く力』育成事業」として継続しているものです。
- (2) 活動費は、市からの事業費と古紙回収等で捻出した生徒会活動費で賄っています。
- (3) 小中連携の視点から、平成 26 年度からは学区内の 4 小学校と連携して活動しています。

## 2 交流活動におけるプロジェクトの概要

### ○ 第 1 回交流活動 期日：平成 29 年 5 月 30 日（火）

プロジェクト名	主な内容	担当生徒
「花で飾ろうプロジェクト」	◇後ノ入地区・大立地区の両仮設住宅に、プランター・花苗・土を運び、住民の皆さんと共同で花苗を植えて飾る。	○大曲中学校 全校生徒会執行部
「ふるさとを語ろうプロジェクト」	◇両仮設住宅集会所で、子どもたちと住民の方々と、お互いのふるさについて紹介し合いながら交流を深める。	○学区内小学校 代表児童(各校2名)

### ○ 第 2 回交流活動 期日：平成 29 年 7 月 24 日（月） ※大仙市内の豪雨災害のため中止

プロジェクト名	主な内容	担当生徒
「和みプロジェクト」	◇両仮設住宅集会所で、合唱（合唱部）やお茶のお点前（生活科学部）を披露する。	○大曲中学校 学年生徒会(各学年2名) 合唱部 生活科学部
「私やりますプロジェクト」	◇両仮設住宅周辺で、窓拭きや除草などの奉仕作業を行う。	○学区内小学校 代表児童(各校2名)

## 3 第 1 回交流活動の状況

大船渡市赤崎地区の仮設住宅 2 カ所（後ノ入地区・大立地区）を訪問し、花の苗や土、堆肥等を贈呈しました。また、仮設住宅住民と共に、プランターへ花の苗を植える作業を行いました。

作業後には仮設住民の方々と一緒に、お互いにふるさについて紹介し合う交流会を行いました。本校生徒と学区内小学校児童が「大曲の花火」について説明したり、花火の映像を流したりして紹介しました。仮設住宅の方からは、赤崎地区の復興の進捗状況についてお話をいただきました。

## 4 その他

第 2 回交流活動は実施に向けて準備を進めていましたが、直前に大仙市を襲った豪雨災害のため、中止を余儀なくされました。

また、平成 30 年の夏には仮設住宅の撤去が予定されており、毎年、この交流活動を楽しみにしていた仮設住宅の住民の方々は新居に移転することになります。この交流活動を、今後、どのようにすべきかを現地の担当者と相談していく必要があります。

# 平成 29 年度大曲中学校 第 1 回赤崎地区被災地交流活動の様子

平成 29 年 5 月 30 日 (火)



午前中は陸前高田市に立ち寄り、「奇跡の一本松」を見学しました。



児童生徒が2か所の仮設住宅に分かれ、各住宅の住民の方々と一緒に花の苗植え作業を行いました。



後ノ入仮設住宅で花の苗植え作業をした後の記念撮影。



同じく、大立仮設住宅で花の苗植え作業をした後の記念撮影。



ふるさとを語る交流会の様子。「大曲の花火」について、児童生徒が紹介しました。



同じく、ふるさとを語る交流会では、赤崎地区の復興状況についてお話をいただきました。



# 絆をつなぎ「たくましく生きぬく力」を育む防災教育

「攻め」の防災

## 被災地交流学习

■期 日 平成29年9月7日（木）～8日（金） ※1・2年生は8日（金）のみ

■内 容 3年生…被災地交流宿泊研修 1・2年生…被災地学習研修

【3年生】

花火PR活動  
吉里吉里地区

復興祈念・第4回交流夢花火大会  
9月7日（木）大槌町吉里吉里漁港



吉里吉里地区の仮設住宅等を訪問し、花火大会の案内と神岡小児童が作成した団扇を配布して交流を深めました。



アナウンス中



音楽担当者



約130発!

鉄くず回収の収益金を資金に、北日本花火興業さんと和火屋さんの協力を得て、大輪の花火を打ち上げました。

献花・黙祷  
旧大槌町役場



献花・黙祷の後に大槌町役場職員等から大震災当時の様子などを伺いました。



第6回大槌・神岡交流グラウンドゴルフ大会  
9月8日（金）大槌町立吉里吉里学園グラウンド

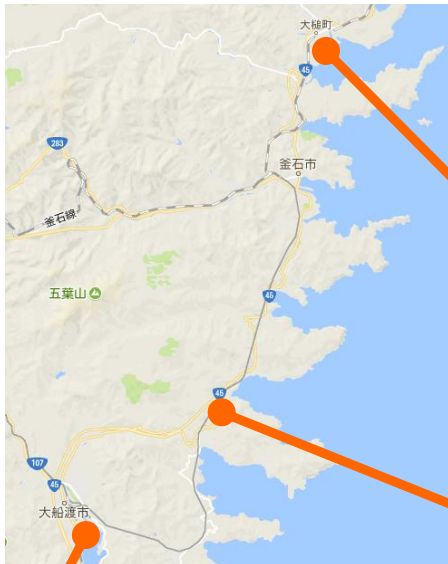
仮設住宅等に暮らすお年寄りの方々は、今年も開催を心待ちにしてくれました。グラウンドゴルフを通じて心の交流を深めることができました。



“物の支援よりこころの支援を”



## 【1・2年生】



献花・黙祷の後でボランティアの方から大震災当時の様子などを伺いました。

### 献花・黙祷・復興の町並み見学 旧大槌町役場・大槌地区



### 語り部体験 津波伝承館



映像や語り部さんのお話を通して、大津波の脅威と生命の尊さを学びました。

### 南リアス線乗車体験(2年生)



被災地の「今」を直接自分の目で見て、感じることができました。

## 10/8(日) 平中祭での交流(吉里吉里若だんなの会)



吉里吉里地区の「はまぎく若だんなの会」が平中祭に参加して、屋台で磯ラーメンや焼きホタテなどの海の幸を販売しました。生徒だけでなく、保護者の皆さんとの交流も深めました。交声曲「ここがふるさと」の迫力ある歌声と素晴らしい演奏にも感激してくださいました。

## 12/2(土) PTA 教育講演会 「みんなの力で大震災を乗り越えて」

講師 芳賀博典氏(大槌町公民館吉里吉里分館 分館長)  
藤本俊明氏(吉里吉里地区復興協議会会長)

大槌町吉里吉里地区との交流の窓口として尽力してくださってきた芳賀博典氏と藤本俊明氏から、大震災から7年目に入った人々の生活の現状や復興への願い、様々な取り組み等について、お話ししていただきました。生徒も保護者も熱心に耳を傾け、被災地への支援と交流の継続を心に誓いました。講演に先立って行った生徒発表でも個々の心の成長を感じ取ることができました。県教育委員会指定「いのちの教育あったかエリア事業」の一環として実施した「PTA教育講演会」は、今年度の防災教育や体験活動を振り返るよい機会となりました。





# 南三陸町交流

## 大仙市立南外中学校被災地交流事業

### ■南三陸町交流1日目 平成29年10月19日(木)

今年で5年目となる南三陸町との交流。3年生が学校を代表して、1泊2日日程で訪問してきました。初日は、ほほえみ直売所の皆さんと南外の農産物や加工品、また特別栽培米の販売を行いました。呼び込みの声や陳列の仕方、試食の勧め方など、どんどん工夫しながら活動していました。



### ■南三陸町交流2日目 平成29年10月20日(金)

2日目は、南外小学校の学校田で作ったお米を志津川小学校へ生徒会長、副会長の3人で届けました。その後は、仮設住宅の集会所で、そば打ち体験を行い、集まってくださった方々に南外のそばを味わっていただきました。また自治会長さんや仮設住宅の皆さんから心に染みるお話をいただきました。







自治会長さんのお話を真剣に聞く生徒たち

## ■南外地域祭 平成29年10月29日(日)

南外地域祭では、「南三陸町交流」の一環として、2年生が二手に分かれ、南三陸町の海産物と南外ほほみ直売所の野菜や加工品等の販売の手伝いを行いました。





# 夢大きく いつでも前向き 笑顔の花 咲かせよう！

太田地域連合修学旅行団被災地交流プロジェクト

大仙市立太田南小学校・太田北小学校・太田東小学校

- ◎太田地域では、3小学校合同修学旅行において、平成 25 年度から被災地に花を植える交流活動を行っている。今年度も、5月25日（木）3校合同で事前学習を行い、交流プロジェクトのキャッチコピーや花壇のデザインを考えた。
- ◎6月26日（月）修学旅行1日目。仙台市荒浜地区で仙台市ボランティアセンターや地権者と一緒に花苗植栽の交流活動を行った。
- ◎3小学校は、この交流活動により子どもたちに被災地の現状を実感させ、太田中学校進学後の本格的な岩手県大槌町支援活動に結びつけていく。



現地の花壇に立てた看板



3校合同事前学習会

## プロジェクトの流れ

### 事前交流会での合同学習

花壇デザインの募集

キャッチコピーの募集



### 修学旅行での花植え交流活動



### 太田中学校と連携した活動

- ・太田子ども会議（児童会・生徒会代表者の合同会議）で被災地交流計画を協議
- ・アルミ缶回収の継続
- ・メッセージうちわの作成
- ・夏季休業中の大槌町訪問へ小学生や保護者の希望者やマーチングバンドが参加
- ・まごころ米の贈呈

### 花苗植栽交流活動を終えて

太田北小学校 高橋 美佑

荒浜には、たくさんの家があったと聞いて私はびっくりしました。そして、たくさんあった家を流してしまう津波のおそろしさをあらためて知りました。

花を植えるときは、「この荒浜が少しでも早く復こうしてほしい」という願いをこめて植えました。私たちの植えた花で、被災地の人を少しでも元気づけられるといいなと思いました。

太田北小学校 高階 実来

荒浜地区に行って、最初に思ったことは、「何もないなあ」ということでした。でも、バスガイドさんは「震災前は家や建物がたくさんありました。」と教えて下さいました。私は、津波の強さとこわさを知りました。そして、荒浜地区の人たちのために、一生けんめい花植えをがんばろう、という気持ちになりました。みんなで考えた看板の言葉やペゴニアの花で植えた「ゆめ」という文字が荒浜の人に届けばいいなあと思いました。

## 活動の様子や振り返り



ベゴニア赤 100 株  
ベゴニア白 140 株  
ベゴニア桃 50 株  
合計 290 株を  
植えました。



震災当時のお話を聞く



太田南小学校 高橋 幸

私は、花植えのデザインを考える時、見た人たちが少しでも元気や笑顔が増えるように、「ゆめ」という字を大きくしてみました。夢を持つとお互いに協力し合って前向きになれると思ったからです。花植えをしたあと、全体を見たら、「ゆめ」の字がはっきりしていて、うれしくなりました。きっと見てくれる人たちの心がなごむだろうなと思いました。花植えをしたことを忘れずに、私たちも、元気に笑顔で生活していきたいと思います。

太田南小学校 高橋 瑠輝

ぼくは、花植えする荒浜の海岸の近くに着いた時、本当に何も建て物もなく、広くてさびしく見えました。津波の被害の跡地は、こんな感じなのかと思いました。この一面が花いっぱいになると、きっと明るくなり、見た人も元気になるだろうなあとと思いながら、花植えを一生けん命でいねいにがんばりました。みんなも真剣に植えていました。ぼくたちの心が届くといいなと思いました。

太田東小学校 佐藤 彩夏

6月の修学旅行1日目に被災地花植え活動がありました。今年も去年と同じ「ゆめ」という文字のデザインで花植えをしました。私は、みんなと協力して花植え活動をすることができました。一輪一輪でいねいに心をこめて植えました。今年の看板の文字は、「夢大きく いつでも前向き 笑顔の花 咲かせよう」です。私達の植えた花が咲いたと同時に、看板の言葉にもある「笑顔の花」が、荒浜地区の一人でも多くの人の心に咲いてほしいと思いました。

太田東小学校 高橋 春花

修学旅行で荒浜地区に行くと、花を植えてきました。荒浜地区に着いたとき、現地の方の説明を聞きました。「ここに住宅地があった。」と話してくれましたが、周りには何もなくて、改めて津波の恐ろしさを知りました。今年も花だんのデザインに「ゆめ」という文字を入れました。私は、一人でも多くの人が、私達が植えた花によって元気になってくれるように、心をこめて植えました。皆も同じ気持ちで植えたと思います。沢山の人が気持ち伝わると嬉しいです。

太田東小学校 三浦 千隆

6月26日に被災地の荒浜地区に行くと花植え活動をしてきました。荒浜地区は、津波が来たことが感じられる景色でした。海を見ると、実際の津波の恐ろしさがどれ程のものか分かりました。花壇には、「ゆめ」という字になるように花を植えました。一つ一つをいねいに植えて「ゆめ」というベゴニアの文字ができました。荒浜地区の津波や地震で大きな被害を受けた人達に、「ゆめ」という文字を見て元気になってもらいたいです。





# 平成29年度太田中学校の大槌交流活動等の報告

～岩手県大槌町立大槌学園と大槌町仮設住宅の方々との交流～

大仙市立太田中学校生徒会

**5月25日（木）～26日（金） 1年生全員**

**「大槌を知り、ふるさと太田について考えよう」**

**大槌学園のプランター回収**

先輩たちの活動を受け継ぎ、大槌学園でプランターの回収と仮設住宅でミニコンサートのチラシ配りを行いました。また、震災資料館の見学や震災学習列車に乗り、津波の恐ろしさと復興の現状を確認することができました。想像していたよりも、仮設住宅に住む人の数は少なくなっていました。大槌の皆さんの笑顔が印象的でした。宿舎では「被災地のために、これから自分たちにできることは何か」について話し合いをしました。津波の怖さや避難の大切さを語り伝えていくことに加え、当たり前で生活することができることのありがたさやふるさと大切さについて考えたり、気持ちのよいあいさつや笑顔の大切さを学んだりすることができました。来年度以降は、更に交流の場を広げ、大槌との絆をより一層深めていきたいです。



**8月11日（金） 生徒会執行部員、生徒有志、小・中学生の保護者  
太田地域内3小学校児童有志、  
第5回ふれあいミニコンサートの開催  
「手作りうちわ」と「太田の揚げ干し餅」の配達**

岩手県大槌町吉里吉里仮設住宅と大槌第5仮設住宅を訪問するために、総勢92名で「太田ふれあい隊」を結成しました。太田中学校全校生徒と太田地域内3小学校の児童が制作したうちわやJA秋田おぼこ農産加工部会から協力していただき準備した太田特産の「揚げ干し餅」を約250軒の住民の方々に届けました。うちわに書かれたメッセージをじっくり読んでくれたり、「毎年ありがとう。楽しみにしていたよ。」「いつも仕事で会えなかったけれど、今年ようやく会えて嬉しい。」と声をかけていただき、温かい気持ちになることができました。また、今年で5年目を迎えた「ふれあいミニコンサート」では音楽のもつ力で大槌町のみなさんを笑顔にすることができました。さらに秋田の郷土芸能でもある「手踊り」を披露すると、手拍子をしながら喜んでくれ、共に楽しみながら、盛り上がることができました。



**8月31日（木） 2年生全員**

**「届けよう、太田の花を!!」**

**大槌学園8年生との交流活動**

～ **結** これからも強い絆で ～

今年度も200個のプランターに赤やピンク、白のベゴニアを植え、全校生徒で大切に育てました。プランターは大槌ライオンズクラブの方々に協力していただき、大槌学園に届けました。大槌学園体育館内で贈呈式を行い、エール交換を行いました。その後、大槌学園の生徒と太田中の生徒が2人1組で仲よく学園敷内にプランターを配置しました。作業が進むにつれて打ち解け、会話が弾みました。同年齢だからこそできた、心のふれあいでした。



**10月20日（金）～21日（土） 3年生全員**  
**「太田と大槌のつながりを大切に、学んだことを発信しよう！」**  
**大槌学園の学園祭PRと9年生との交流活動**

大槌学園を訪問し、学園祭を明日に控えた大槌学園9年生の合唱を聴いたり、一緒に虹希 YOSAKOI を踊ったりして、楽しく交流させていただきました。また、地域から託された「まごころ米」約700kgを贈呈することもできました。約1年ぶりの再会でしたが、お互いの名前を覚えている生徒たちもおり、「絆」を感じることができました。その後、大槌町ショッピングセンターマストへ移動し、大槌学園・学園祭のPR活動を行いました。夕方ということもあり、赤いジャージに気付いた多くのお客様から声をかけていただき、嬉しかったです。虹希 YOSAKOI や学年合唱「証」を披露しましたが、観客の中には大槌学園の生徒の姿も見られ、ここでも交流し友情を深めることができました。



**10月26日（木） 全校生徒、中学生サミットメンバー**  
**太田地域自主防災会 他**  
**避難所開設訓練の実施**

太田地域を震源とする直下型の地震が発生し、大仙市で震度6を観測。多くの家屋が倒壊し、水道・電気のライフラインも停止しているという想定で避難所開設訓練を行いました。シェイクアウト訓練の後、体育館に集まり、総務班、施設・安全班、連絡・調整班、物資・運搬班、給食班、救護班、保健衛生班の7班に分かれて準備に取りかかりました。総務班は全体の状況を把握し、報告しました。施設・安全班は畳を体育館に敷き、段ボールでパーティションを作りました。物資・運搬班は給水車から飲料水を確保したり発電機の準備をしたりしました。連絡・調整班は被害状況を日本語と英語でホワイトボードに書き出したり、玄関で避難者の受付をしたりしました。給食班は調理用テントを設置し炊き出しを行いました。救護班は、角イスと畳で簡易ベッドを作り救護所を設置し、避難者の血圧測定を行いました。保健衛生班は、簡易ゴミ箱や簡易トイレを設置しました。この訓練を通して、避難されてきた方々の心に寄り添う活動の大切さを学びました。これは、大槌学園との交流活動を7年間続けてきたからできたことであり、地域のみなさまのご協力があったのものと改めて感じました。



**11月24日（金） 全校生徒、太田地域内3小学校6年生**  
**大槌学園9年生代表生徒**  
**大槌交流活動報告集会の実施**

今年度の交流活動を振り返る集会に小学校6年生だけではなく、大槌学園9年生の生徒会執行部員5名と語り部実行委員3名が来校してくれました。大槌学園の代表生徒たちの到着がお昼だったため、一緒に給食を食べながら再会を喜び合うことができました。集会では、各学年の代表および小学校の代表が活動を通して学んだことを発表し、大槌交流活動の意義について再確認することができました。その後、大槌学園の皆さんから発表していただきました。これまで何度も東日本大震災の講演会を聞いてきましたが、同年代の話ということもあり、これまでの学びをさらに深めることができました。「7年間交流を続けてきた私たちだからこそ、できることがきっとあるはずだ！」と強く感じる時間ができました。





## 避難所開設訓練の概要



### 太田中学校

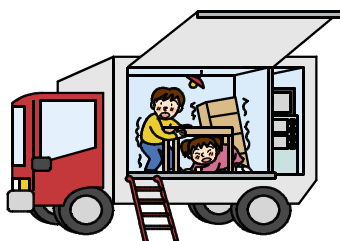
期 日	主な活動	訓練参加者
10月26日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シェイクアウト</li> <li>・避難訓練</li> <li>・避難所開設(室内パーティション等)</li> <li>・避難住民の受入</li> <li>・災害用炊飯袋を利用した炊き出し訓練</li> <li>・東日本大震災の際に、実際に避難所開設を行った方を招いての講演会</li> </ul>	全校生徒及び職員 174名 地域住民 53名 日本赤十字社太田分区 6名 中学生サミット関係 12名 市内教職員 27名 その他関係機関、来賓 等 総計約320名

### 平和中学校

期 日	主な活動	訓練参加者
7月2日(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練</li> <li>・避難所開設</li> <li>・避難者受入</li> <li>・炊き出し訓練、食事の提供</li> <li>・応急手当講習</li> </ul>	全校生徒及び職員、地域住民、 大仙市職員、消防署員 等

### 大曲中学校

期 日	主な活動	訓練参加者
10月31日(火) *地域合同防災 訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練</li> <li>・煙道体験</li> <li>・高所救助訓練の見学</li> <li>・初期消火活動</li> <li>・地震体験車への乗車</li> <li>・避難所開設訓練</li> <li>・心肺蘇生、AEDの使い方等一次救命処置訓練</li> <li>・炊き出し訓練</li> <li>・国土交通省職員の方の講演</li> </ul>	全校生徒及び職員 780名 若竹町住民 23名 大仙市大曲消防署職員 大仙市総合防災課職員 大仙市水道局職員 国土交通省湯沢河川事務所 等





太田中学校



平和中学校



大曲中学校





だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業  
平成29年度 太田中学校 避難所開設訓練  
大仙市立太田中学校

9月12日（火） 保護者 地域の方 全校生徒  
事前学習Ⅰ 平成29年度学校安全外部指導者派遣事業  
（秋田県教育庁保健体育課）

体育館に保護者や地域の方をお招きし、全校生徒参加で防災教育講演会を行いました。講師は秋田大学地方創生センターの鎌滝孝信准教授。テーマは「過去に身近に起こった自然災害を知り、今後に備える」でした。過去に仙北地域で発生した大地震、それに伴う被害、今なお残る断層など具体的な出来事について説明していただき、いざという時にどのような行動を取るべきかについて、全員で考えました。「今日、家に帰ったら家族と何を話し合うのか」「家族と離ればなれになったときはどこで落ち合うのか」など、実際の災害を想定して教えていただきました。講演の後、たくさんの生徒から質問が出ました。鎌滝准教授からは、一つ一つの質問に丁寧に答えていただき、考えを深めることができました。



10月18日（水）大仙市総合防災課 大仙市教育委員会  
全校生徒 太田支所市民サービス課  
事前学習Ⅱ 避難所開設訓練事前集会（大仙市総合防災課）

事前集会は、大仙市総合防災課、太田支所市民サービス課、大仙市教育委員会の指導のもと、避難所の組織体制や各担当の仕事の実際について教えていただきました。はじめに総合防災課の郡山防災危機管理監より全体説明をいただきました。

各班ごとの「事前学習」では、総務班は本部の運営の仕方、施設安全班はパーティション設置の方法、連絡調整班は受付運営の仕方と情報伝達の方法、物資運搬班は飲料水の準備や支所からの物資運搬の方法、給食班は炊き出しの方法、救護班は救護所の設置の仕方と健康調査の仕方、保健衛生班はゴミ箱の設置の仕方と簡易トイレの設置の仕方などについて説明していただきました。それぞれの班で説明を聞くことで、自分たちの役割を自覚し、仕事の内容を具体的に把握することができました。



## 10月26日（木） 全校生徒、中学生サミットメンバー 太田地域自主防災会 他 避難所開設訓練実施「だいせん防災教育『生き抜く力育成』事業」

太田地域を震源とする直下型の地震が発生し、大仙市で震度6を観測。太田地域でも多くの家屋が倒壊し、水道・電気のライフラインが停止しているという想定で、避難所開設訓練を行いました。太田中学校生徒・教職員、副市長、市議会議員、太田中学校応援隊、太田地域住民、消防本部東分署、太田駐在所、長信田駐在所、太田支所職員、太田公民館職員、太田赤十字奉仕団、大仙市総合防災課職員、太田ライオンズクラブ、西仙北町自主防災会、大仙市教育委員会教育指導課職員、参加を希望する大仙市内小中学校教職員、参加を希望する中学生サミットメンバー及び引率教員の協力を得て、総勢320名ほどで訓練を行いました。

避難所開設訓練の目標は『生徒会による組織編成を行い、避難所開設に関わる役割分担や協力・支援の方法を学ぶこと』『生徒・教職員・市職員・地域住民が一体となって避難所運営を行うこと』『継続している被災地交流の経験を活かし、避難者の心に寄り添った避難所運営を行うとともに、地域の一員としての役割を自覚し、主体的に開設・運営に参画すること』で、この3つを胸に刻みながら訓練を行いました。

シェイクアウト訓練の後、体育館に集まり、総務班、施設・安全班、連絡・調整班、物資・運搬班、給食班、救護班、保健衛生班の7班に分かれて準備に取りかかりました。

### ◆各班の主な活動内容

- 総務班……全体の状況把握及び報告等（情報を常に発信）
- 施設安全班…体育館の畳敷き及び段ボールでパーティション設置等
- 物資運搬班…給水車から飲料水の確保及び発電機の準備等
- 連絡調整班…避難者の受付及び被害状況を掲示（日本語と英語で）
- 給食班……調理用テント設置及び炊き出し作業（カレーライス）
- 救護班……簡易ベッド（角いすと畳を利用）を作成  
救護所設置並びに避難者の血圧測定
- 保健衛生班…簡易ゴミ箱や簡易トイレを作り設置等

サミットメンバーもそれぞれ本校生徒と協力し、てきぱきと役割をこなす姿が随所に見られ、心強く思いました。作業中、突然の余震に対応できるように素早いシェイクアウト訓練なども入れながら対応力を高めることができました。昼食のカレーライスも運ぶだけではなく、各地区担当の生徒がパーティションに入り、地域の方と会話をしながら食べました。

昼食後、「東日本大震災からの教訓」という演題で講演会を行いました。講師は日本ボーイスカウト岩手連盟理事長、末永正志さんです。震災時の避難所の様子や状況、震災からの教訓として「自分の命は自分で守る」「目に見えないもの（家族愛・地域コミュニティ・絆・命の大切さ・他愛行動など）こそ価値がある」ということをお話していただきました。

終わりの集会では、「今後も中学生としてできることを行い、住民同士が助け合うまちづくりに貢献したい。」「避難されてきた方々の心に寄り添う活動の大切さを学びました。これは、大槌学園との交流活動を7年間続けてきたからできたことであり、地域の皆様のご協力があったのものと改めて感じました。」という生徒会長の発表がありました。地域の方からも「生徒たちのてきぱきした動きが参考になった。」とお話をいただきました。3つの目標が十分に達成できた訓練になりました。





## 絆をつなぎ「たくましく生きぬく力」を育む防災教育

### 「守り」の防災

## 避難所開設訓練

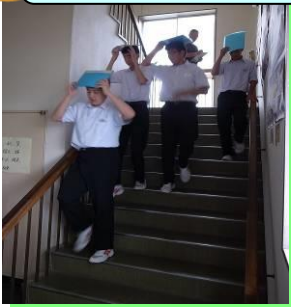
- 期 日 平成29年7月2日（日）
- 対 象 平和中学校生徒・教職員・地域住民
- 内 容 本校では、次のような想定の下で訓練を実施した。

7月2日(日)午前9時頃、西仙北地域を震源とする直下型の強い地震が発生し、大仙市地域で震度6を記録した。神岡地域の家屋150世帯が全壊または半壊し、各避難所に住民が集まった。倒壊を免れた平和中学校にも避難者が集まり、避難所を開設することとなった。平和中学校では、1校時の授業中に地震が起こった。そのため、生徒たちの身の安全確保のために平和中学校にとどまり、避難所の開設・運営に協力することとなった。

### ■ 活動の様子



9:00  
地震発生・シェイクアウト・避難



## 自助から共助へ



9:40  
避難所設営開始



保健衛生班  
トイレ等の衛生管理や衛生物資の設置・配給



施設・安全班  
住居スペースの確保や  
施設の安全点検



11:00  
避難住民の受け入れ開始



総務班  
避難者の受付、運営計画の作成、各班の連絡調整



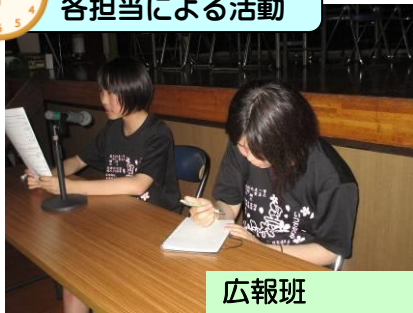
## 地域への貢献







11:30~  
各担当による活動



**広報班**  
案内・表示や避難者への情報伝達



# 思いやりの心



**救護班**  
避難者の健康状態の確認・把握



**物資班**  
物資の受け入れや  
避難者への配給



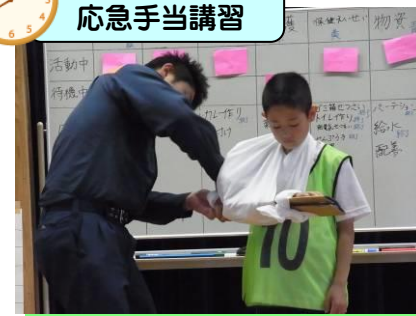
12:00  
食事配膳・昼食



**給食班**  
食料及び飲料水の確保・炊き出し



12:40  
応急手当講習



# たくましく生きぬく力



13:30  
避難所運営の引継ぎ



**【避難者の感想より】**

- ・子どもたちの頑張りに感動した。この訓練が生かされるように私たちも頑張りたい。
- ・生徒さんの支援がよく行き届いていた。イスの準備などがあった。

避難所開設訓練の3週間後に秋田県を襲った豪雨…本校の体育館が実際に避難所に指定されました。

大仙・平和中  
豪雨 混乱なく避難所運営  
日頃の防災教育 生きる

22日午後11時、大仙市大仙町に豪雨が降り、大仙市では避難所として指定された本校の体育館に避難者約70人が避難した。特別支援学級の生徒も避難所運営に協力し、避難者への支援に当たった。大仙市では、避難所運営の訓練として、約15名の生徒が避難所運営の訓練を受けた。訓練では、避難所運営の準備や、避難者の受け入れ、避難者の生活のサポートなどについて、生徒が役割分担して取り組んだ。訓練は、約15名の生徒が避難所運営の訓練を受けた。訓練では、避難所運営の準備や、避難者の受け入れ、避難者の生活のサポートなどについて、生徒が役割分担して取り組んだ。

2017年(平成29年)7月25日(火曜日)

**“自分たちのふるさとを自分たちの手で守る”**



## 29年度「大曲中学校 地域合同防災訓練」報告書

### 1 ねらい

- (1) 地震の性質やそれに伴う災害を考え、安全な行動がとれるよう、態度や習慣を育てる。
- (2) 災害時において、冷静かつ迅速に的確な行動がとれるようにする。
- (3) 地震の発生を想定し、地域住民と中学生、防災関係者が一体となって避難訓練及び実践的な応急対策活動等の訓練を実施することにより、総合的な防災体制の確立及び意識の高揚を図ることができるようにする。

### 2 実施日時 平成29年10月31日(火)

### 3 実施場所

大曲中学校 校舎内及び校地内周辺

### 4 参加者

大曲中学校生徒(720名)  
教職員(60名) 若竹町住民(23名)  
国土交通省湯沢河川事務所  
大仙市消防本部 大仙市総合防災課  
大仙市水道局

### 5 実施内容

○訓練1(地震避難…1・2・3年生・職員)  
平成29年10月31日(火)午前9時頃、緊急地震速報が発表され、秋田県沖を震源とする強い地震が発生し、大仙市でも震度6強から7の強い揺れが70秒ほど続き火災も発生したという想定である。非常放送で生徒に避難指示があり、一斉に体育館に避難した。



○訓練2～4(初期消火・煙道体験・高所救助訓練見学活動…1年生)

火災発生後の初期消火活動と火災発生時の避難体験として、水消器による消火活動と煙道体験を1年生全員が行った。また、1年部教職員が高所から避難する様子を見学した。



○訓練5(国土交通省による講演  
…2年生・若竹町民)

国土交通省職員の方から、河川の増水による災害や対策方法を聴き、防災に対する意識を高めた。



○訓練6(地震体験…2年生・若竹町民)  
地震体験車に乗り、強い揺れを体験した。





○訓練7（避難所開設…3年生・若竹町民）

「訓練1（避難訓練：地震想定）」に引き続き、若竹町周辺地域の家屋が全壊または半壊し、大仙市より避難指示や避難勧告が発令され、さらに大曲中学校を避難所として開設するよう市長より指示がきたことを想定し、避難所開設を行った。



○訓練9（炊き出し訓練…1～3年生

若竹町民）

災害時において水道管が破裂し、上水道の確保ができない中、市より給水タンク車が避難所である大曲中学校にいち早く応急給水に来たという想定で、給水車の水を使用した炊き出し訓練を行った。



○訓練8（心肺蘇生CPRとAED…3年生

若竹町民）

災害時には、救急車を要請しても直ちに現場へ駆け付けることは困難な状況になりやすい。傷病者においては一刻を争う状態もあり得ることから、一次救命処置の仕方について理解し、とっさの場合においても一次救命処置ができるようにする。

## 6 訓練を終えて

今年、河川の増水による災害やその対策方法を学ぶ活動を取り入れたことで、活動の幅が広がり充実した。地域住民や市防災課などの関係機関と連携し、総勢800名で訓練を実施することができた。緊急時には地域等とのネットワークを大切にし、その機能を果たして、安全に行動できるようにしていきたい。



